

自分で望遠鏡を作り、それを使って星を見ることを通じて、宇宙を知るための方法を学ぶことを目的としたワークショップをやってきました。

高梨直紘（東京大学）／平松正顕（国立天文台チリ観測所）

アーティスティックにデコられた望遠鏡を手に、ビルの谷間の向こうに見えるあの星を入れようと悪戦苦闘する子どもたち。ポインティングは簡単そうに見えて、なかなか難しいものです。口々に「入らない」と言いながらも、最後にはなんとか全員、無事に目標の星を入れられるようになりました。

五月の連休中のこと。十組くらいの親子連れが参加して行われたワークショップ「宇宙人になろう!」でのひとこまです。周りを都会のビル群に囲まれた日比谷公園を舞台に、自分で作った望遠鏡（オルビス社のコルキット「スピカ」）を使って星を見てみようというこのワークショップ。年齢に関係なく、私たちが住むこの宇宙がいったいどんな世界であるのかを知ることは、とても大事なことで私たちは考えています。

おとも子どもも、私たちはみんな宇宙の中で暮らしていますが、宇宙のこと

を知りません。めんどくさい宇宙のことなんて知らなくとも、日々の生活は送ることができます。でも、宇宙を知れば、世界の見え方が変わります。とくに浮かぶあの星の向こうを想像することができるようになります。うちゅうの時間スケール、あるいは空間スケールから自分のありようを見つめ直すことができるようになります。いまの時代を生き抜く上でグローバルな視点が重要なのは言うまでもありませんが、それを超えたユニバーサルな視点を身に付けること。つまり、みんな宇宙人になることを目指して、このワークショップは企画されています。

かつてアポロが月に行ったとき、人類は初めて外からの視点で地球の姿を眺めることができました。はるか遠く、漆黒の闇の中にぽつんと浮かぶ地球の姿は、私たちが「宇宙船地球号」に住んでいる仲間であることを強く実感させたことでしょう。つきに行ったのと同じくらいの思



ちっちゃな子ども、ちゃんとして自分で望遠鏡を完成させていました。大事に使ってね!

想的なインパクトを次に私たちにもたらせるものは、系外惑星における生命兆候の発見に違いありません（独断）。きつとくるその日に向けて、私たちはその意味をよく噛みしめられるように自分たちを鍛えておきたいものです。にかいめのワークショップもこの夏に予定していますので、良かったら一緒に!

▼ 宇宙人になろう! ワークショップ
ウェブサイト

<https://ws.acamon.jp/>